

調理師としての志新たに 小林西高校が「庖丁式」を初開催

4月24日、小林西高校が狭野神社（高原町）で「庖丁式」を実施しました。同校調理科に入学した31人に調理師を目指す志を再認識してもらうとともに、3年間の安全と技術向上を願って初めて開催。神職が神事を行い入魂した庖丁セットを一人一セットずつ受け取った生徒たちは、志を新たに調理師としての一歩を踏み出しました。



式に参加した藤田杏珠さんは「いい一歩を踏み出せた。自分の料理で人をよくこばせたり、日本の食文化を広められる調理師になりたい」と話していました

元市軟野連理事長 藤崎満吉さん 市内小学校に野球用具を寄贈

元小林市軟式野球連盟理事長の藤崎満吉さん（細野）から市内全小学校12校にグローブ計29個、ボール計36個が寄贈されました。5月1日には藤崎さんの母校である小林小学校で寄贈式が開かれ、藤崎さんは「野球は一生涯通じて私の心の友。楽しくなるので、ぜひキャッチボールから始めてみて」と子どもたちに野球の楽しさを伝えました。



寄贈は、藤崎さん自身が米寿を迎えるのを機に、これまでお世話になってきた地域への恩返しとして、市子ども応援基金を通じて行われたものです

経済発展・雇用促進に期待 株式会社 Vitalize と企業立地協定

4月22日、アプリ開発やWEBデザイン、コンサルティング事業などを手掛ける（株）Vitalizeの小林支社設置に伴う立地調印式が、市議会の吉藤洋子議長立ち会いのもと開催されました。5月1日付けで操業を開始した小林支社では令和8年度までに9人の新規雇用を見込んでおり、本市経済の発展や雇用促進への効果が期待されます。



本市出身の上竹則諒小林支社長は「小林でもITの仕事ができると子どもたちに伝えたい。いろいろな分野で小林に恩返しできれば」と話していました

健康づくりの推進を目指して 95人に委嘱状を交付

4月22日、市民の健康づくりをサポートする健康推進員などへの委嘱状交付式が開催されました。委嘱されたのは健康づくりに関する知識の普及活動などを行う「健康推進員」42人、地域で食事面の相談・助言やベジ活の推進などを行う「食生活改善推進員」31人、自殺予防啓発や傾聴活動などに取り組む「こころの健康サポーター」22人です。



委嘱された95人の任期は2年間。それぞれの立場から市民の心と体の健康づくりの推進や行政との橋渡しなどの役目を担います

ドローンを活用し防災体制の強化 西諸3市町が(株)安藤商事と協定締結

5月13日、本市を含む西諸3市町が宮崎市の株式会社安藤商事(安藤光広代表取締役)とドローンを活用した防災に関する協定を締結しました。災害時などにドローンを活用し、被害状況の調査や捜索・救助業務の支援などを行うことを想定。安藤社長は「ドローンの情報収集能力などを生かし、地域社会に貢献していきたい」と話しました。



同社はドローンを活用した撮影や測量、農業散布などを行っている会社で、令和2年の熊本豪雨では人吉市で浸水被害の調査なども経験しています

熊本国税局酒類鑑評会で すき酒造「伝須木」が優等賞

すき酒造(兒玉昇代表取締役)の本格芋焼酎「伝須木」が、令和6年度熊本国税局酒類鑑評会の本格焼酎部門で優等賞を受賞しました。5月17日に、兒玉代表(写真㊤)と内嶋光雄杜氏(写真㊦)が市長を表敬訪問しよろこびを報告。兒玉代表は「受賞を機にお客様に伝須木の品質をみていただいて、さらに広めていければ」と話していました。



「香りと味のバランスにこだわっている」と内嶋杜氏。厳選された芋と地元産ヒノヒカリの米麹を使い、「シンプルで上品な味わい」となっています

吉野玖瑠美さんと上野翔太さんを 2代目観光アンバサダーに選任

5月11日、市の観光PRなどを行う、小林観光アンバサダーの選任式が花の駅生駒高原で開かれました。就任したのは、市内銀行員の吉野玖瑠美さんと団体職員の上野翔太さん。吉野さんは「自然が豊かな小林市の魅力をSNSなどで発信したい」、上野さんは「イベントや祭りを通して生まれ育った小林を全力で盛り上げたい」と意気込みました。



選任式で手渡された法被に袖を通した吉野さん(写真㊤)と上野さん(写真㊦)。2人は今後1年間、小林市の魅力を市内外に発信する役割を担います

姉妹都市能登町との心の架け橋に 復興願うチャリティー歌謡祭開催

5月12日、文化会館で能登半島地震のチャリティーイベント「第10回歌謡祭」が開かれました。郷土の活性化につなげるとともに、被災地との心の架け橋になろうと、市内のカラオケ愛好家4人でつくる東京ブルーナイツ(森岡林代表)が企画。市内外から80人以上が出演し、演歌や歌謡曲など思い思いの曲で自慢の歌声を披露しました。



受付には募金箱も設置して被災地支援を呼びかけ。集まった募金とイベントの益金をあわせた26万5,035円は、市を通じて能登町へと届けられます

教育の充実・発展を目的に活動 市教育研究センター研究員を委嘱

5月10日、市内小・中学校教職員18人に市教育研究センター研究員を委嘱しました。設立41年目を迎えた同センターは、教育の充実・発展を目的に活動。今年度は児童生徒に1台ずつ整備されているタブレット端末を活用し、一人ひとりの子どもに応じた個別学習や対話的な学びの充実を図る授業のあり方について調査・研究を行います。



代表して森重健太郎主任研究員(紙屋小)が「18人で力を合わせ調査研究や授業実践を行い、市内の先生方に成果を広めていきたい」と誓いました

馬頭観世音祭で畜産業発展を祈願

5月8日、小林地域家畜市場内の保食神社で馬頭観世音祭が開かれました。畜産関係者など約150人が参加。尊い命をささげた家畜に感謝し、家畜の安全と家内の繁栄を祈願しました。馬頭観世音祭は古くから続く伝統行事で、市内各地でも行われています。



永井良雄さんに教育委員を委嘱

5月10日、永井良雄さんが教育委員に委嘱されました。教育委員は、市の教育に関する方針や重要事項の決定を行う役割を担います。今回の任期は令和9年5月9日までの3年間になります。



トランポリン折田依知果選手 九州大会での好成績を市長に報告

5月2日、4月に開催された第18回全九州トランポリン競技選手権大会で小学生低学年女子の部準優勝、県対抗競技3位となったTENトランポリンクラブの折田依知果さん(野尻小3年)が市長に結果を報告しました。本格的に競技を始めて約2年という折田さん。週3〜4回練習を重ねて日々成長しており、今後の活躍が期待されます。



「準優勝できてうれしい」と大会を振り返る折田さん。「上に高く飛び上がれることが楽しい」とトランポリンの魅力を話していました

魚のつかみどりなどで大にぎわい すきむらんどキッズデイ

5月5日、こどもの日にあわせて、すきむらんどキッズデイが開催されました。会場ではキッズバイクやミニゴルフといった、子どもたちが楽しめる遊具の貸し出しや、すき物産協会の物産販売などが催され、約600人が来場。同日には「すきむらんどキャンプイベント」も開催されるなど、多くの家族連れが須木の大自然を満喫しました。



未就学児から小学生まで約100人が参加したニジマスつかみどりで、逃げる魚を必死に追いかける子どもたちへの声援で会場は大盛り上がり